

令和5年度 第1回犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会 会議録

日時:令和6年1月19日(金)

午後1時30分から

場所:205会議室

◆出席者

河村委員、豊田委員、原委員、岡田委員、加藤委員、板津委員、武藤委員、
松本委員、森岡委員

欠席者

野田委員

事務局

前田高齢者支援課長、粥川高齢者支援課長補佐、竹本高齢者支援課統括主査、
間内高齢者支援課主査補

傍聴者 なし

◆次第

1. あいさつ

2. 協議事項

(1) 愛知県移動支援モデル事業について

(2) 犬山市生活支援体制整備事業について

3. その他

◆議事内容

司会（粥川補佐） 本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻前ですが、ただ今から令和5年度第1回犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会を開催させていただきます。

この協議会の会議録は、「犬山市附属機関の会議の公開に関する要綱」第5条第3項に基づき、会議録等を公開させていただきます。そのため、会議録の作成上、機械で録音し会議録を作成することもありますので、会議の発言の際には、お一人ずつでお願いいたします。なお、公開にあたり、委員2名の署名が必要となり、後ほど会長より指名されますので、併せてご承知おきください。

また、当会議は、同要綱第4条に基づき傍聴を認めておりますが、今回、申込はございませんでした。

それでは開会にあたりまして、高齢者支援課長 前田よりご挨拶申し上げます。

前田課長： （課長挨拶）

司会： ありがとうございます。

それでは、本日使用する資料の確認をさせていただきます。（資料確認）

それでは規則第4条第2項に基づき、岡田会長にお願いしたいと思っております。

岡田会長、よろしく申し上げます。

岡田会長： それでは規則ということもございますので、以後の議事を進行したいと思っております。

本日は野田委員が欠席でございますけれども、あと9名、皆さんお揃いですので、この会議は成立しているということをご報告いたします。

そして、先ほど事務局からお話がありました議事録の署名は、名簿順に従いまして、「豊田委員」と「原委員」にお願いしたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思っております。

冒頭、課長からもお話がありましたが、1年8か月ぶりの会ということで、事務局側のメンバーも異動がありましたが、その間には首長が山田市長から原市長に代わったり、第10次の高齢者福祉計画の策定があったということでもありますけれども、この会の性格上、性質上、やはり協議会に（聞き取れません）形の会でございますので、引き続き皆さんの情報交換、情報共有という場にしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それで、元旦に大きな揺れがございまして、大きな被害が出ているわけですが、一次避難をされて、これから二次避難ということも進んでいくと思っておりますけれども、やはり高齢者の方たちが、画面などを見ていますと、「この町を離れたくない」「みんなと一緒にこのまま過ごしたい」というお話があるということは、やはりその地域の繋がりというのか、きちっとしたものが出来上がっていたのかなというふうに思います。すぐには無理かもしれませんが、一日も早く元の地域、地域の繋がりが戻ることを念じていきたいと思っております。

それでは早速ですけれども、次第に従いまして、進めていきたいと思っております。

本日の協議事項の1「愛知県移動支援モデル事業について」ということで、これに

つきましては、移動支援事業検討部会長加藤さんのほうからご報告いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

加藤委員： （資料3について説明）

岡田会長： ありがとうございます。

今の報告について何かご質問やご意見はありますでしょうか。

実際に対応されました社協さんのほうから何かありますか。

板津委員： そうですね、社協としてこの実証実験に携わらせていただいて、当初の予定よりも延長させていただいて…。やはり地域のニーズに合わせて、やはり声もあるということだったので、延長という形で取り組ませていただいて、もしこれが「仕組み」として出来上がってこれば、社協としても協力していくことはやぶさかではなかったのですが、色々と法的なハードルであったり、そういったところで制限があったのかなという部分も踏まえて…。ただ無償でずっといくというのは、こちら側はいいのかもしれないですけども、やはり行政側の立ち位置も考えていくと、ずっとそのままというの是不味いのかなというのはいったいだったので、そういうことを考えていくと、ずっと色々やっていく方向は、ひょっとしたらもっと考えていけないといけない所があるのかなと思いますので、ただ加藤部会長さんが言われた通り、それをきっかけとして次に繋がったというところがあったので、逆にサロンについては、社協としても地域サロンの支援をしておりますので、この「(入鹿) えんがわサロン」なども継続的にやっていけるように、社協としても今後、お手伝いができるのかなと思っていますので、そういった形で、何かしらこの事業を通して地域の活動のほうに向けて、社協として今後お手伝いができるのかなと思っています。以上です。

岡田会長： ほかの報告も少し時間が経っておりますので、その間の経緯などもご質問があれば、委員のみなさん方からお受けしたいと思いますが。

直接事業に結びつかなかったのも、これは福祉的効果でサロンができたというのは、すごくいい所ですね。

よろしいですか。

原委員： サロンらしい活動というのは、この地域には全くなかったんですか。

加藤委員： 入鹿地区ですか。 その辺りはどうなんですか。

間内： 入鹿地区は、高齢化がかなり進んだ地域なんですけど、なかなか昔ながらのおうちで、ご近所付き合いとかはあるにはありますが、実際知りすぎていて、なかなか繋がらないといえますか、そういう地区で、サロンを一度作ったんですけど、それも中止になっているような地域でして、なかなか地域の繋がりが難しい所だったんですけど、今回、この実証実験でずっと同じ車に色んな人が代わる代わる乗っていくところで繋がりが上手にできて、そこがサロンに上手くつながったという形になっています。

原委員： 地区の自治会からとかそういう集まりや祭りみたいなことはやってないんですか。

間内： 地区の祭りですか。

原委員： 自治会というか町内会というような…。多分地域としては、何かしら動いていると思うけれど、その中にサロンとしてではなくて、町内会が主体で何かやっていくこともしてみえなかった。

間内： 色んな地区活動はあったと思いますが、団体が5つあるというのは教えてもらったので、団体はあるんですけど、高齢者の方が集まってお話ししたりという場が無かったといえますか、そういう地域でした。

原委員： はい、わかりました。

岡田会長： そういう地区に新しくサロンができた。行き帰り、往復小1時間かかっていたんですね。それができたということは良かったなというふうに思いますけれども。

他はみなさん、よろしいですか。

これでモデル事業が終了したということになりますので、今後の検討部会をどうするかということだと思います。加藤部会長の考えるところをまずお聞かせいただきます。

加藤委員： 部会の中でも話を一度して、一応、このモデル事業としては一旦、これで「きり」ということで。部会としても、この一番最後に『今後の展望』と書いてありますが、今後も高齢化は進んで行くと思うので、その時の実情に応じて、またリセットして、その時その都度、考えるほうがいいのではないかということになりました。

岡田会長： ということで、部会での検討はそうだったということ。「一旦、検討部会を閉じて」ということですね。

加藤委員： そうです。

岡田会長： 皆さん、どうですか。よろしいでしょうか。またその必要に応じた時にリセットして新たな部会を設立するというので、一旦、この「移動支援事業検討部会」をこの場で閉じるということで、皆さん、いかがでしょう。

《 「異議なし」 の声あり 》

岡田会長： ありがとうございます。ではそのように決めさせていただきます。

加藤委員： ありがとうございます。

岡田会長： ご苦労様でした。

それでは、続きまして協議事項2の「犬山市生活支援体制整備事業」について、事務局及び河村さんのほうから説明をよろしいでしょうか。

事務局(竹本)： (資料4-1、4-2、5、6について説明)

河村委員： (当日配布資料について説明)

岡田会長 どうもありがとうございました。今、色々と現状の報告や活動の状況などのご説明もございました。ここで皆さんに何を決めろということはございません。ただ今の報告などを見て、ちょっと困っている団体に対するアドバイスや、もう少し聞いてみたいということ、それから「自分たちの団体はこういうことをやっています」という紹介などもあれば、皆さん、ご自由にご発言いただければと思います。

原委員： 「世話人交流会」で何か世話人さんたちが今、やっていることで「こういうことが問題だ」とか「こういうことをどうかしたらどうだ」という話はなかったですか。

河村委員：「世話人さん交流会」の時に事前アンケートというものをお配りしました。それを集計したものを資料で今日は付けていないので申し訳ないですが、一番多かった意見は、「参加される方の笑顔を見るのがやりがいです」という前向きな「やりがい」に関してです。ただ、それ以外もやはりマイナス意見としては、「地域の中で反対意見を持っておられる方がいて、サロンの活動が滞ってしまった」ですとか、「横槍が入って、やめることになりました」というものも幾つか集約で上がってきました。あとはやはり資金的なところー「立ち上げて継続していくためには何かしらの資金が必要だ」という意見も幾つか集約することができました。以上です。

原委員： 今の話で、世話人さんが継続的にやってくださるのはありがたいけど、高齢化もあるから、新しい世話人さんを探すということが、うちもそうだけど非常に難しく、若い人たちは是非、サロンに参加するのはどうしたらいいとか、町内の役員さんたちを交えて、何とか手伝ってもらえる若い人を探したいといつも思います。でもこれはどうやっても上手くいかない。うちの町内は毎月10回程のサロンをやって、だいたい200人か300人の人が来るのだけど、世話する人が限定されて、月に10回もやっていたら自分の時間がないという話が出ている。だけど地域の高齢者の方は集まってくる。終わると喜んで帰っていかれる。それを見ると「やめる」ということができなくなってしまった。もう80歳になってもまだ頑張っているんだけど、本当にどうしようと。どうするとみんなに喜んでもらえるか、できるだけ本当は60代の若手のメンバーさんが参加してくれると、もう少し違ったサロンの体制ができるんじゃないかと思います。子ども会は子ども会でちゃんと組織があって、子どもたちには子ども会が主体で色んなことをやってくれているので、それはいいとしても、いわゆる中間層というか若年層のその辺りの人が地域に参加してくれると、何か事

が起きた時に若手が協力してくれるととてもいいだろうし、色んなことで、地域の皆さんにも還元できるんじゃないかと常に思っていますが、どうしたらいいのか、本当にいつも悩んでいます。河村さんが作ってくれたマップのおかげで、よその地域から「橋中サロンに参加してもいいですか。」という電話がちょこちょこ入ったり、そんな嬉しいことはないんだけど、来てもらうのはいいけどそのうち辞めてしまったら、と思ってみたり。その辺はいつも僕としては問題で頭が痛いんです。だから、町内会議だとか色々な会議で若い世代が集まった時に「こういうことをやってるから、ちょっと手伝え」と2、3人は拾ったけど、だからどういうやり方があるのか、地区としてというか、市としてというか、もう少し大きい組織の中で、そういう活動の仕方を検討できるといいと思っています。何とかそういうものを。今のところ、町内会で何とかやらせてもらっているのですが、町内会の組織を使ってそういうことをやっている事を宣伝しがてら、わかってもらうように誘っていますが、若手の人は色々仕事も持っているし、帰りも遅いし、なかなか自由がきかないということーそこがいつも難しいと実は思っています。

河村委員： 砕けた言い方になって申し訳ないんですけど、原さんのような先輩を見ていると、「本当に格好いいな」と思います。各地域にメンバーさんの年代の男性が一生懸命サロンをやられたり、「高齢者の方に喜んでもらおう」といってアイデアを出しておられるんですけど、そういう姿を見ていると「本当に格好いい」と思っていて、自分も感化されてきたんですけど、原さんが一番最初にその地域活動をやられたきっかけは何だったんですか。

原委員： 私のきっかけ。民生委員になったから。民生委員になって、うちのもう一人の相棒が保育園の先生だったということもあって、そういうところから。一番初めは「ちびっこ広場」というのを作りました。要するに幼稚園に上がるまでの年中、年少さんが「一緒になって遊んであげるといいよね」という話からです。それが発端になったんだけど、めちゃくちゃやり手の奉公お姉さんだから、これもやる、あれもやるなんてどんどんできてしまって、一番多かった時には15もあった。15もあると2日に1回は何かかんかがある。「とても無理だ」という話から、厳選して、話し合いをしながらやって、今も一緒に手伝ってくれているので有難いのですが、私が男で相手が女性なので、なかなかその辺がメンバー的にもよかった。これが男同士だったらきっと難しかったと思うんです。だから恵まれたメンバーでやれたので、ここまですっともってこれましたが、そろそろ年代を下げてもらわないと苦しいかなと思っています。

岡田会長： ありがとうございます。
他の皆さん、何かご意見ございますか。
河村さん、一つお聞きしていいですか。

河村委員： はい。

岡田会長： さわやか福祉財団で、犬山の紹介をしていただきました。で、その反応というのはどうでしたか。というのは、やはり「犬山はこんなことをやっていた」と

いう外部からの評価というか、反応を少しお聞きできたらと思いますが。

河村委員： はい、ありがとうございます。全国的にこの体制整備事業が上手くいっていない自治体のほうが多いという報告でした。というのは、やはり「コーディネーターが辞めてしまう」、「協議体は立ち上がったけど自然消滅してしまう」ということで、協議体を通じていかないことには事業が進んでいかないんですが、協議体が1年という年度ごとで閉じてしまうというような現状も他市町村ではあるということです。そういったことで、犬山市では6年間ずっと協議体が続けてきたということをお聞きいただき、本当にモチベーションの高い住民の方々が集まっていたら、「自由な雰囲気の話ができる」ということが、ずっと継続できてきた理由なのかなと思います。会議形式でかしまった協議体ではなくて、本当に原さんのような方が集まって自由に話をしていって「楽しかったね」と終わって、また来月もそこにやってきていただくような所が継続してこれたところだと思います。

岡田会長： 周りからもそういう評価でしたか。

河村委員： そうですね。

岡田会長： ありがとうございます。

せっかくですから、皆さんも関わりの中で「こんなことがあった」とかヒントになるようなことがあればご意見をいただきたいと思います。

森岡委員： 私たちは女性と若い世代の団体なんです。ですから、高齢者の方も高齢者で役割があるし、若手は若手でやはり役割があって、平日のお昼間なら働いていて無理だけれども、土日だったら若手が活躍するような…。ですから、私たちは平均年齢もすごく若いので。ただずっと努めて言っていることは、古くから居る方たちに「絶対に『なんでお前は来ないんだ』という言葉だけは言わないでくれ」と。1回でも来てくれたら『ありがとう。来てくれたんだな』と絶対その言葉はちゃんと皆さん、言ってください」というのが若手が続く秘訣かなというふうに、私は考えます。本当に「来てくれてありがとう」「ありがとう」と言うから若手もちょっとでも時間を作って「手伝いに行つてあげようかな」となると思うんですよ。ですからこの間の餅つきもそうですけど、例えばビオトープのメダカの引越しとかもやったんですが、そういうこともビオトープが古くなってしまつて「新しく作り替えたいね」というのは、やはり若手の協力が無いと。だから土日に…。やはり皆、来てくれるんです。いろんなことで。ですから、私たちの団体はいいなあと。

岡田会長： 楽田コミュの活動を見ていると、これは高齢者向けのイベントだとか、これは子ども向けのイベントだとか、あまり区別なくやってみえる気がするんですけど、そういうことは特に意識してやってみえるんですか。

森岡委員： いや、そういう訳ではないんですけど、今コミュニティは27、28年になるんですけど、ずっと20年間ぐらいは子どものことだけをやっていたんです。でもそのお子さんたちが成長されて子どもを連れて参加する。孫が居るといった時代になつ

てきました。それと町内から会費をいただいているし、やはり高齢化社会になってきていますから、これからはということで、4、5年前から「高齢者の方たちに喜んでもらえることは何だろう。」という感じでやってきています。でも本当に幸せて、何をやってもうまくいっている。一つずつ…「こども食堂をやるよ」と言ってもうまくいっている。「お買い物支援をやるよ」と言ってもみんなが助けてくれて、うまくいっているのです、何も悩むことがないんです。

岡田会長：　すごいですね。

森岡委員：　一つ悩みの種は、私たちの地域に薬師川という川があるんですが、そこに枝垂れ桜が楽田地域に3,000本ぐらい植えてあるんです。植えた時は、みんな若かったんですけど、私たちが若手だったんですけど、私たちが高齢者になってきているので、「剪定とかが困ったね」という話を地域の企業の方にしたら、「弁当とお茶を出してやるから、それで人を釣れ」と。ですから企業の方の協力もすごく出ているし、「こども食堂をやる」と言ってもお金をポンと出してくださったり、「やってやることはできないけど、協力はしてあげたいから」ということで。だからいろんな点で、本当に恵まれています。だからあまり悩みはないかな。

岡田会長：　すごいですね。今、少しお話が出ましたが、企業さんに支援される活動があると。タイアップしてこういう活動がやれるということはあるんでしょうか。サロンというか。

河村委員：　そうですね。「ゲスト集」に載せさせていただいたところでは、幾つか企業があります。ヤクルトさんとか葬儀会社さん、福祉医療のセニアカーさんです。

岡田会長：　これは謝礼金ゼロということで、結局、来ていただくことが企業としてメリットがあるのですね。

河村委員：　そうですね。

岡田会長：　豊田さん、いかがですか。何か現場に関わってみえるので。

豊田委員：　現場ですか。そうですね。私たちは介護が必要になった方、総合事業の方の支援なので、本当に元気の方たちの今、そういうことを聞かせていただいて、そちらのほうはすごく活発化しているんだなという印象と、介護分野でいうところもあって、人手不足もありますし、基準緩和とかの事業所とかが増えていかないですし、人手もないし、と思いながら聞いていましたが、それこそ要介護3、4、5になってしまうと、なかなかそういう元気なところに行くのも恥ずかしくなってしまうんですけども、事業対象者、要支援1、2、要介護1ぐらいの方であれば、そういうところに行けるので、本当に「金がなく、一緒に使えたらいいな」とか、犬山も老人ホームが増えてきて、老人ホームに入った方とかは、老人ホームの中で完結してしまう一施設の中で色んなことが完結されて、その方たちが地域に出ていっていない。夏祭りも老人ホームの中で完結してしまっていて、そこで地域との交流がないというところ

ころで、そういう施設に入っても地域と関わるとまた目線が違うのかなど。介護が必要になっても地域でそういう状態になってもという心の壁がなくなって、家で過ごせるのかなということも感じながら、お話を聞いていました。今後、まだ困る人が一杯いるなど思いながら聞いていました。以上です。

岡田会長： まだこれは終わったわけではなく、今、やはり考えていかなければいけないなあと思います。

松本さん、いかがですか。

松本委員： 私事ですが、今、母が要支援1がありながらちょっと色々あって、圧迫骨折をして入院したんですけれども、その直前に施設を見てもらって「決めようか」と思っていたところで骨折が判明したので、本人も大変だったと思います。今、豊田さんがおっしゃったような「老人ホームの中で自己完結」というのが、何か私も気になります。すごく近くに住んでいたのも、近くの所にお世話になろうと思ったんですが、やはり自己完結しているのも、今特にまだなかなか近所の人と会えなくなるということに、すごく母が嫌悪感があったもんですから、それをお聞きしていて、すごく感じました。

それともう1点、外国人の視点からですけれども、昨日、小牧市で「外国人集住(都市)会議」という全国会議がありまして、全国の外国人集住地域の市長さんたちがおみえになって、色んな役員とやりとりする中で、やはり人口がすごく減っていって、外国人が増えつつありますが、いいことも悪いことも含めて、外国人自体も入管法が1990年が変わって、もう30年経つので高齢化もそろそろ進んでいって何人かはいらっしゃるし、在宅でみている子どものおじいちゃん、おばあちゃん、もうそういう世代にきています。そういうマイナスの面も、それからそこに年金問題とかも含めて、掛けていらっしゃらない方もまだまだみえるので、そういうことから始まったら、まだなだお伝えしなきゃいけないことが、若い世代だけではなくて、もっと高齢者の方にも生活者としての情報を伝えきれていないという反省と、それからいい所は、やはり25、26歳から45歳ぐらいまでの年代が多いものですから、それこそ地域活動の担い手になれる世代です。

でも今は、まだ日本人側の理解も、外国人側の日本文化理解もそんなに進んでいないので、なかなかすり合わせが難しいですが、でもこれから先は、これから生まれてくる子どもも含めて地域活動の担い手として何か上手くマッチングできていけばいいなと思っています。ヤギのことも、ヤギが逃げ出して、今、迷惑ばかりかけています。結構、憩いの場としてすごく機能しているので、組織化はしていませんし、ヤギが太るばかりですが、でもそういう所もサロン化できるといいなあ、今、お聞きしながら思っていました。そんなところです。すみません。

岡田会長： やはり外国人の方についても、これから本当に問題が出てくるんでしょうね。

松本委員： そうですね。確実に出てくると思います。

岡田会長： 今の外国人の高齢者の方は、日本語をしゃべれない方が…。

松本委員：　そうですね。今、来る人は割と制度も整えつつあるんですが、南米系中心の最初に来た人たちは、しゃべれないとか、あまり日本語の理解ができないので、子どもさんも割とそういうふうになってしまうということですね。

岡田会長：　結構、自分たちで固まっていますね。

松本委員：　コミュニティがあるので。でも楽田は本当に楽田コミュのおかげで、施設もすごく利用できるし、結構開かれているので、でもまだ外国人だけ（肩を）寄せ合っているところがあるものですから、私たちもそういうところに助けに入っていけたらなあと思っています。

岡田会長：　ありがとうございました。

武藤さん、シルバー人材センターはどうですか。

武藤委員：　はい。このマップでもご紹介いただいているんですが、シルバー人材センターで「わんまるサロン」というものを城下町の本町通り沿いのシルバー城下町プラザという「COCOTOMO」さんの店舗と併設になっている所でやっています。毎週水曜日の午前中にやっていて、今、9人だったかな。近隣の高齢者の方に来ていただいて、活動をしています。世話人はもちろんシルバーの会員ですので、高齢者の方が高齢者の方をおもてなししているというようなイメージでやっている所です。ただ、やはりシルバーのほうも高齢化が進んでいまして、今、世話人をやっている方も段々年を取ってみえるということもあって、今後続けていくためには、やはり後継できる方を見つけていかなければいけないかなということ。あとは、近隣の方で「来たいわ」という方がみえて、今、人数が9人で場所が限られるものですから、手一杯なんですけども、もう少し広い所でやれないかということで、シルバーの事務所は今、駅東の高齢者活動センターというところにあります。そこは今まで子育て支援の事業をやっていましたが、色々な条件があって取り止めになりましたので、そのスペースが今空いていますので、そちらに移転できないかということも考えてはいますが、ただ移転すると、今、本当に近隣の方に来ていただいているので、移動するのが難しいかなということもありまして、なかなか事業展開が上手くいかない部分もあって、何かいい解決方法があれば、またこのネットワークの中で教えていただけると、或いは情報を教えていただけるとありがたいと思います。以上です。

岡田会長：　はい。また情報が何かありましたらということで、よろしくお願ひします。

加藤さん、いかがですか。今までのお話を聞いて。

加藤委員：　まずは、さっきの犬山の介護の認定率が低いという数字で見て、「すごいな」と。それはでも先ほどの河村さんのプレゼンを見ても、「これだけやっていたら、それはいいよなあ」というのと、よその街に行っても、犬山のこの体制はよく僕も聞くので、僕も我がことのように嬉しいですよと言っているんですけど、学校で聞いたことぐらいしか知らない。でも森岡さんのさっきの「何をやっても上手くいく」とい

うということは、なかなかよその町では聞かないので、それはちょっと森岡さんをよその町に連れていかないといけないなと思うんですけど。「私がやったら何をやってもうまくいくよ」と。

でも大概の場合は、原さんが言われた、明日も明後日も同じような悩みの町に行きますが、一つはやはり自治会とか、昔からあった地縁の繋がりが、段々担い手がいなくなってきた、同じ人ばかりが頑張っている。次を探そうにも相手がいないものだから、同じ人が苦勞をしていて、「これはこのままでは続かないよね」と皆、わかっているのに、とは言え40代、50代の人と一緒にやれるかと言ったら、本当に忙しいから、自分の生活に手一杯でそこまで気が回らないというところで、「どうする。」というのがありますが、やはりでもそれは、さっき楽田は楽田、城下町は城下町、北と南のお話もありましたけど、地域によって大分違うので、その地域ごとに話をしていかなければいけないし、その地域の実情に応じて、次の担い手を見つけていかなければいけない。

ただやはりヒントになるのかなあと思うことが少しあるとすれば、例えば原さんが言っても「いや、ちょっと」と言うかということ、行くと逃げられないんじゃないかと。つまり掠め取られてしまうのではないかと。だから森岡さんが言われた一つのヒントで、「1回は行くけど、次は行かないかもしれないよ」ということが許容されるかどうかで、次の世代の人の関わり方の度合いや、プレッシャーの大きさがずいぶん違うんだらうなあと思っていて、僕の知っている名古屋市内の自治会で校区のスローガンが「できる時に、できる人が、できるだけ」という呼びかけでやっているんです。一応、コアになるメンバーは3人ぐらい、割と若手の人がいらっしゃるんですけど、「いつも来なくていい」と「できる時でいいよ」と。

できる人が来て、例えば3時から5時までであったとしても、全部いなくてもいい。その中の3時から4時だけは手伝うという形で、区分を切ってやるというか…。そこで「何をしたらいいかわからない」という状態ではなくて、「何をやって欲しいか」ということも割と明らかにして誘っています。

そうするとやはり関わる人がめちゃくちゃ増えて、さっき阿久比町の人やみよし市の人が見に来たと言っていましたけど、みよしも、新興住宅のほうの小学校区の子育て中のお母さんたちが、やはり「子どもの見守り」する活動に全然人が足りなくて、10人ぐらいでやっているけど、「こんなことずっとやってられないよね」と、みんな疲れてきていて、そこでうまくやったのは、やはり今のお父さん、お母さんたちはLINEで繋がっているから、LINEで「いついつ、見守りをやります」と、それと「調整さん」というスケジュールの調整機能のついたアプリがあるんですが、それで「何月何日に行ける人」という登録をしてもらいます。

そうすると、「ここは一杯になりました」という感じで、そうすると多分、今100人近くの人が登録してくださって、今は人が多すぎて、「ここはいらないです」というぐらいになっているので、やり方としては、多分「やらなければいけない」ということをどうやって見える化して、それを今風のデジタルとかを上手に使って、「ここならいけるよ」ということで、「でもずっと役員をやらされるのではないよ」と、ちょっとそこを担保して、森岡さんもさっき『「なんでいつも来ないんだ』と言わないようにしてね」と。まさにその通りで、それを言ってしまうと1回行くと、「もう、そんな事を言われるならいいわ」と、そういうことがある。多分その辺が上手く切り分けできるといいのかな、と思うんですけど、それがどこも一足飛びにいけるわけで

はないので、明日もどこかで話をしようと思いますが、最近、ちょっと嬉しいのは、明日は五つぐらいの小学校区でやってきたことを、五つの小学校区が集まって全体で話すということがあるんですけど、そこに地域の中学生が「参加したい」と言って参加してくれて、その子たちが小学校区ごとにやったときも、めちゃくちゃ我が事として考えてくれて、「私たちに何かできる事はないかな」と。

「自分の地元がすごく好きだけど、そんな状態とは知らなかった」、要は「おじいちゃんたちが頑張っていて、私たちはぬくぬくと生きていたけど、そんなに困っているなら何かできることはないのかなということを考えたい」ということがあったので、やはり「こういう状況だ」ということを大人が悩んでいるだけではなくて、若い人も一緒になって話せるような機会があったら…。もちろん全員じゃないです。明日も70人いて6人が中学生なので、本当に僅かなんですけど、それでも手を挙げてくれる子が居るということは、僕たちにとってすごく嬉しいことなので、学生さんが「餅つきをした」ということもあったし、おばあちゃんたちのアイドルになった例も聞きましたけど、やはりその機会や、接点みたいなことを増やしていかないといけないのかなと思いました。

岡田会長： ありがとうございます。先ほどの河村さんのご紹介で、多分気を使っていたいただいて、うちの学生の紹介もいただきましたが。あのようにその場でパッとマッチングができるというのも、本当に稀なことなんですけど、偶然なこともありました。今のいちごの会の方でも、最初1回だけのつもりだったのが、結構、良かった。アイドルになっちゃったんですね。それでもう3回目なんですけど、

加藤委員： すごいですね。逃げられないですよ。

岡田会長： 先ほど加藤さんが言われたように、学生たちは「いつでも行ける」というつもりでまずやっているんですね。で、途中で誰でもいいし、多少遅刻していてもいいしというように気楽に参加をさせていただいているということがあるんです。だからこれも一つのヒントになるのかなとは思いますが、で、同じようなことを例えば羽黒の人が来て「やってくださいよ」と言っても、学生は多分、羽黒までは行かない。

加藤委員： なるほど。

岡田会長： やはり楽田ー地元の駅で降りて、学校に来る間にちょっと寄り道くらいのことであれば参加ができるんですけども、多分もっと条件が良くても、羽黒までは行ってやらないような気がします。だから色々な条件が上手く噛み合っただけで…楽田のほうとは色々お世話になりながら、こちらもやっていると思います。学生はやはりその時はいいんですけど、継続といとなかなか難しく、卒業・就活が始まると、やはり足が遠のいてしまう。それは宿命だと思っているんです。ただ、やはりこういうことを地域でー学校のそばでこういうことをやっていたということで、今度は自分たちが自分の所に帰った時に、自分の近所で、地域でやってくれたらいいなということを書いて、僕としても斡旋をさせていただいています。森岡さんの所でも宿直として。

森岡委員： そうなんです。スタッフとしても大学生がいます。

加藤委員： そうですよ、すごいですね。

岡田会長： アルバイトというか…。

加藤委員： すごくいいですね。

岡田会長： なかなか森岡さんが厳しくて、なかなかお眼鏡にかなう学生が…。

加藤委員： スーパープロデューサーですもんね。

岡田会長： そんなこともあったんですけど、やはり何かのきっかけが必要でその繋がりをつなぐことを誰かがやらないと、やはり繋がっていかないことはわかりますので。

松本委員： 昨日、人権センターとお世話になったんですが。先ほどおっしゃったLINEで繋げてもらっておくと、忘れていかないんですよ。試験だから来れないとか、就活だからとか理由はありますが、でもふとした時に来てくださるんです。そういったことが大事だと思います。有難いです。

岡田会長： ありがとうございます。

では、板津さん。

板津委員： 地域で活動していくというのは、当然、原さんみたいなパワーを「誰か引き継いでやってくれ」と言っても、多分私もできないです。なので、やはり100でずっとやり続けるということは非常に難しいのではないかなと思う。多分大事なのは、0（ゼロ）にしないということだと思うので、その辺の強弱はありますけれども、0にしなければ、必ずまた復活できると思うので、一旦蹴ってしまうと、またやり直すということが非常に大変だと思うので、さっきの隙間時間でどういうふうに関わってもらおうかというところから、やはりスタートする。

若い人たちも、我々も働いている以上、やはり時間が制約される中で、やれる時間帯に限りがあると思います。そういったところで、まず入ってもらいつつ、当然、歳を重ねて、いずれバリバリやれるようになれば、それはそれで中心的に展開してもらえばいいので、それを繰り返ししていけば、若い人たちもやれる所で参加してもらって、まずはそこでいいよと。まずは「切らさない、絶やさない」というところをどうやって維持していくかというところではないかと思います。決して100が50になっても、僕はそれが多分マイナスではないと思っていて、それは移り変わっていく中ではどうしても強弱ができる。そこを上手く意識して、声掛けして関わってもらうような働きかけがしていければ…。

まずは0（ゼロ）にせずに続けていくということ、サロンも必ずそこに、その時に開いているという場所があるという所が必要だと思うので、そういう場所も0にな

らないようにしていくということも大事なのではないかなあと考えています。かと言って、それが本当にやれるかということは、なかなかそれぞれの地域性もあるでしょうし、そこに関わっていただける人員というのも様々だと思いますので、ただ、そういったところを考えながらやっていくと、ひょっとしたら突破口のようなものが見えてくるのではないかと考えております。

岡田会長： 皆さんからご意見をいただきまして、一層のコーディネーターとして、河村さん、何か、皆さんのコメントに対するコメントがあれば…。

河村委員： 僕が関わらせていただいて、6年経ちますが、原さんに最初にお目にかかった時に「地域活動をどうして続けているんですか。」と聞いたら、先ほども聞きましたが、「楽しくなってまってよ」と言われたんです。やり始めたら楽しくなってしまったというのが、当時の僕にとっては、ちょっとわからなかったです。「地域活動というのは、煩わしいものだ」というふうに思っていたんです。それが6年間こうやって見させてもらう中で、「かっこいいなあ」というふうに思うようになってしまったんです。

ここはやはりマインドチェンジしたところになるかなと思うんです。地域活動で煩わしいんですけど、やってみると楽しくなってしまうんです。すごくそういったモチベーションの高い方々と協議体でお話をさせてもらった中で、ものを作っていくクリエイティブな感覚というものが、ものすごく楽しくなってしまうと、コーディネーターという仕事は大変なときもありますが、すごく楽しんでやらせていただいております。今後も頑張らせていただきます。よろしくお願ひします。

岡田会長： 事務局も何かしゃべりたかったら、しゃべってください。いいですか。

前田課長： 皆さんにはお礼しかないです。冒頭で申し上げたとおり、行政でできない部分、犬山に活気があるのは、やはり皆さんあってだと感謝しておりますが、それに甘え過ぎてはいけないと、今日痛感しました。やはり我々は、我々がやらなければいけない事がありますし。皆さんお話しを聞いていると色々な壁があろうかと思ひます。さっき板津委員もおっしゃったんですけれども、「絶対押し付けてはいけない」と。我々がしくみとしてやらせるようにしてしまったら、これは潰れてしまう。私も昨年4月からこの立場にたって、色々見させていただきましたが「犬山は確かにすごいな」と、自分も見ながら先ほどの加藤委員ではありませんが、すごく嬉しく思っています。誇りに思っています。監査とかで聞かれても積極的にアピールしてます。

そういう状況ですが、それは本当に皆さんが頑張ってくださっているだけです。「我々には何ができるのだろう」と。この場ではまだ言えないんですけれども、やはり行政として移動支援の話のいただいたりだとかして、行政としてやらなければいけないこと、できる事はあろうかと思ひます。我々は、どちらかという豊田委員と同じように「残念ながら元気でなくなってしまった人を、いかに元に戻すか」とか年寄りであっても回復することはあると思ひますので、そういう手伝ひをしたり、或いはそういう方々が重度化しないように、踏みとどまっていたとところがあるところが役割なんだと思ひます。細々ではありますが、微力ではありますが

ども、行政としても皆さん方に遅れていかないように、皆さん方についていけるように、頑張っていきたいなというふうに思っています。助けられてばかりで、恥ずかしいですけども、この場でお礼を言わせていただくということで、私からのコメントとさせていただきますと思います。

岡田会長： 協議事項というか、皆さんの情報交換で終わりましたけれども、支援体制の整備事業については、よろしいでしょうか。

それでは次第の3ということで、「その他」について、皆さんのほうから何かございますでしょうか。

《 「なし」 の声あり 》

では、無いようですので、議事を終了したいと思います。

本日は、皆さん、どうもご協力いただきまして、ありがとうございました。また来年からも「この体制をどうするか」という話も含めながら、また検討いただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

司会： では、これもちまして協議会を終了させていただきます。本日はお疲れ様でした。

令和 年 月 日

上記に相違ないことを確認する。

委 員 _____

委 員 _____

令和5年度第1回犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会次第

日時：令和6年1月19日（金）
午後1時30分から午後3時まで
場所：205会議室

1. あいさつ

2. 協議事項

(1) 愛知県移動支援モデル事業について（資料3）

(2) 犬山市生活支援体制整備事業について（資料4-1、4-2、5、6）

3. その他

犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会委員名簿

区分	名前	所属団体	役職等
(1)	1 河村 政徳	一般社団法人和顔の輪	代表理事
(2)	2 野田 智子	JA愛知厚生連 江南厚生病院	患者支援室長
(3)	3 豊田 啓子	介護サービス事業者協議会	副会長
(4)	4 原 康眞佐	犬山南地区協議体	-
(4)	5 岡田 和明	学校法人市邨学園名古屋経済大学	地域連携センター長
(4)	6 加藤 武志	学校法人梅村学園中京大学	現代社会学部非常勤講師
(4)	7 板津 克哉	社会福祉法人犬山市社会福祉協議会	事務局次長
(4)	8 武藤 裕一郎	公益社団法人犬山市シルバー人材センター	事務局長
(4)	9 松本 里美	特定非営利活動法人シェイクハンズ	代表理事
(4)	10 森岡 万朱衣	楽田地区コミュニティ推進協議会	会長

事務局:犬山市健康福祉部高齢者支援課

○犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会規則

平成29年3月27日規則第13号

改正

令和元年12月26日規則第51号

犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、犬山市附属機関設置条例（平成28年条例第36号）第8条の規定に基づき、犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会（以下「協議会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員)

第2条 協議会の委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 生活支援コーディネーター
- (2) 地域医療の関係者
- (3) 介護サービス又は介護予防サービスに係る事業者
- (4) その他市長が必要と認める者

(会長及び副会長)

第3条 協議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(招集及び議事)

第4条 協議会は、会長が招集する。ただし、会長及びその職務を代理する者が在任しないときの協議会は、市長が招集する。

- 2 会長は、会議の議長となる。
- 3 協議会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 4 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第5条 協議会は、協議する事項について調査及び研究を行うため必要があるときは、部会を置くことができる。

2 部会の構成員は、会長が指名する。

3 部会ごとに部会長を置く。

4 部会長は、委員のうちから会長が指名する。

5 部会長は、その部会の事務を掌理する。

6 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長の指名する委員がその職務を代理する。

(部会の招集及び議事)

第6条 部会は、部会長が招集する。ただし、部会長及びその職務を代理する者が在任しないときの部会は、会長が招集する。

2 部会長は、会議の議長となる。

3 部会は、その委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

4 部会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 部会長は、部会の調査又は審査が終了したときは、当該調査又は審査の結果を協議会に報告しなければならない。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、健康福祉部高齢者支援課において行う。

(補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (令和元年12月26日規則第51号抄)

1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。(後略)

愛知県移動支援モデル事業について

高齢者の社会参加を促す環境づくりとして、運転に不安を持つ高齢者が自家用車に依存しなくても生活できるよう、高齢者の移動を支援する取り組みとして瀬戸市、半田市、日進市、北名古屋市、設楽町とともに2020年度から2022年度までの3年間、「高齢者がいきいきと輝くまちづくりモデル事業」として実施した。犬山市も少子高齢化に伴い、社会保障費の増大やマンパワーの不足が問題となっている今、今回構築する移動支援事業はあくまで“住民同士の支え合い”という形を目指し参加した。

2020年から市内の移動実態、ニーズ及び担い手の把握を目的としたアンケート調査や移動から考える地域づくり勉強会を開催し、2022年2月から実証実験を開始した。毎週木曜日午前中に、入鹿地区の利用者自宅から名鉄犬山駅付近のスーパー（キャスタ▷ヨシズヤ）までの往復送迎を犬山市社会福祉協議会がサロン車両・ドライバーを提供し実施した。

実施実績；期間 令和4年2月から令和4年10月まで

回数 37回

延べ利用者数 154人

平均利用者数 4.16人/回

その後、社協に代わる担い手の発掘のため、民間事業者（車両販売店・葬祭業者）に打診するなど、様々な業者に働きかけを行ったが、モデル事業に直接結びつく成果は上げられなかった。

実証実験終了後とその後

実証実験の利用者は移動中に、地区の人たちと同じ時を一緒に過ごすことが楽しいと感じていた。この交流の機会をいい形にできないかとSCと相談したところ、地域にサロンづくりを検討することとなった。そこに空き家の貸出の話とマッチングし、11月から「えんがわ茶論（サロン）」として、月1回開催し地域の交流を行っている。現在は、地域の乳幼児連れのママさんも参加し、地域の多世代交流の場になっている。

今後の展望

当市の公共交通に対する施策の見直しに合わせ、協議体等を通じてもう一度地域の実情に合った施策を研究していく。

犬山市生活支援体制整備事業について

資料4-1

令和4年度 犬山市生活支援コーディネーター 事業報告

事業名	犬山市生活支援コーディネーター(1層)		
実施期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日	実施地域	犬山市全域
法人名	一般社団法人 和顔の輪	担当者	河村 政徳
住所	愛知県犬山市字若宮68番地4		
TEL / FAX	090-6585-6088 / 0568-67-5595		

目 標	①地域課題の把握及び解決に資するネットワークの構築 ②情報通信技術を活用した持続可能な情報共有の仕組みの構築 ③担い手養成を見据えた住民意識の醸成に資する働きかけ ④行政、関係機関、2SCとの規範的統合
実 績	①市内全域の2層協議体に参加し新規参加者や地域の社会活動団体とのネットワークを構築するとともに、住民主体の運営方法、制度理解の深化を支援。2層生活支援コーディネーターをバックアップするとともにファシリテーション方法についても助言を実施。 ②ホームページの更新頻度を劇的に増加するとともに、生活支援コーディネーターだよりを定期発行し、事業の進捗、コーディネーターの動き、協議体の状況の「見える化」を実施。 ③協働プラザ等、関係機関との連携を図り、市民活動への参加、各種セミナーへの参加を実施。担い手につながるネットワークの構築を行った。 ④行政担当者、社会福祉協議会、2層コーディネーター等関係者間の連絡、連携を密に実施。

タスク	実績
円滑な事業の運営	行政担当者、社会福祉協議会、2層コーディネーター及びあんしん相談センターと連携し、円滑な事業運営を実施。
1層協議体運営（協議会、研究会）	犬山市地域ケア・生活支援推進協議会に委員として出席。1層研究会を開催し、2層協議体交流会の企画を立案。
生活支援コーディネーターの周知、広報 一般企業、地縁組織等への協力依頼、働きかけ	犬山市生活支援体制整備事業のホームページの頻回な更新を実施。パンフレット更新、生活支援体制整備事業説明用パワーポイント資料をアップデートし、各種団体（民間事業者、市民協働プラザ、小学校PTA、市民団体、NPO法人等）への説明、協力依頼を実施。
2層コーディネーターのバックアップ	2層コーディネーターとの情報共有、モチベーション維持への働きかけを行うとともに、ファシリテーション技術の提案等を実施。
2層協議体の活性化支援、2層協議体交流会の企画、運営	各地区2層協議体への参加、協議体運営の協力、制度理解のためレクチャーを実施、協議体メンバーとの関係を構築。2層協議体交流会を開催し、先進地としてみよし市、阿久比町、あま市より視察を受け入れ。
関係者のネットワーク化	市内イベント、セミナー、市民活動に積極参加し、商工会議所、民間企業等、市議会議員、NPO法人等、顔が見える関係づくりを実施。
資源マップの企画、作成 協力事業所、グループの見える化、PR協力	2層コーディネーターと協働し、つどいの場マップを更新。情報の集約、見える化を実施。令和5年度版2,000部を増刷。
担い手養成のための企画	新規企画として、つどいの場マップゲスト集を作成：1500部印刷。担い手養成のための案内チラシ2種作成：600部×2種印刷。

2層コーディネーター バックアップ 実績	
犬山北地区	2SC担当者不在の期間、協議体の運営、あんしん相談センター職員との連携、地域回り等に協力。
犬山南地区	新任の2SC担当者との連携、2層協議体の毎月開催のサポートを実施。
城東地区	2SC担当者、あんしん相談センターとの連携、2層協議体毎月開催のサポートを実施。
羽黒・池野地区	協議体の運営は順調。住民との関係も良好な状況。協議体に参加し、2SC担当者に助言を実施。
楽田地区	2SCと情報共有、連携を行い名古屋経済大学等へも同行支援を実施。

年間実績

	内 容	実績
4月	・コーディネーター連絡会（今年度の方針共有）	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、令和4年度版つどいの場マップ配布	完了
5月	・コーディネーター連絡会	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集	完了
6月	・生活支援体制整備事業関連書類、パンフレット、パワーポイント資料更新	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、コーディネーターだより（夏号）発行	完了
7月	・コーディネーター連絡会（戦略会議化）	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新	完了
8月	・1層研究会、協議体交流会企画	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、ささえあいマップ企画→つどいの場：ゲスト集に変更	完了
9月	・コーディネーター連絡会（戦略会議化）	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集、つどいの場：ゲスト集企画	完了
10月	・協議体交流会 開催 【先進地としてみよし市、阿久比町、あま市の視察を受け入れ】	完了
	・ホームページ定期更新、コーディネーターだより（秋号）発行	完了
	・ゲスト集情報収集・編集	完了
11月	・コーディネーター連絡会（戦略会議化）	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集、ゲスト集情報収集・編集	完了
12月	・つどいの場マップ更新、アップデート開始	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集、ゲスト集編集	完了
1月	・コーディネーター連絡会（戦略会議化）	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新、コーディネーターだより（冬号）発行、ゲスト集編集	完了
2月	・つどいの場マップ更新、ゲスト集完成→発注	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新	完了
3月	・コーディネーター連絡会（戦略会議化）	完了
	・2層協議体（5圏域）	完了
	・ホームページ定期更新	完了

自己評価

行政担当者、各圏域あんしん相談センター、2層コーディネーター等関係者との連携、規範的統合を進め、体制整備事業の進捗は順調であると考えます。協議体の運営、協議体交流会の企画、担い手育成に向けた市民協働プラザとの連携、市民活動への参加、各種リーフレットの作成を実施しました。先進地としての視察を受け入れる状況となり、他市町村からも評価をいただいている状況だと思います。

犬山市生活支援体制整備事業について

資料4-2

令和5年度 犬山市生活支援コーディネーター 事業計画

事業名	犬山市生活支援コーディネーター(1層)		
実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	実施地域	犬山市全域
法人名	一般社団法人 和顔の輪	担当者	河村 政徳
住 所	愛知県犬山市字若宮68番地4		
TEL / FAX	090-6585-6088 / 0568-67-5595		

業務内容	①市の地域課題の把握及び解決に資するネットワークの構築 ②情報通信技術を活用した持続可能な情報共有の仕組みの構築 ③担い手養成を見据えた住民意識の醸成に資する働きかけ
------	---

業務達成の方法	①市内5圏域の2層協議体の維持継続、制度理解、ファシリテーション等のバックアップを行うとともに、広く情報を収集しネットワーク構築を図る。 ②ホームページの定期更新、常に最新の情報にアップデート。SNSと紙媒体を併用。 ③市民団体、NPO法人、自治会等、担い手に繋がる場所でのレクチャー、情報提供を行うとともに、市民活動への参加、広報誌の配布等を行う。
---------	---

タスク	方法	備考
円滑な事業の運営	事務局機能・運営 行政担当者との連携・共有	
全市的な事業促進	【新事業】サロン世話人交流会の企画 人材の交流、情報交換を促進	将来的な担い手養成、総合事業を視野に入れた働きかけ
生活支援体制整備事業の周知、広報 一般企業、地縁組織等への協力依頼、働きかけ	パンフレット作製 ホームページ作成 コーディネーターだより	適宜更新、見直し 更新 季刊発行
2層コーディネーターのバックアップ	担当者との連携・共有 2層協議体参加	協議体運営のアイデア、フォロー マッチングの促進
2層協議体の活性化支援、2層協議体交流会の企画、運営	1層研究会メンバーと企画、協働 2層コーディネーターと連携 新規参加者の養成	方向性の共有 住民主体の運営にシフト
関係者のネットワーク化	民間企業、事業所等、担当者、事業主等との連携	親和領域との連携 顔が見える関係づくり
つどいの場マップ、ゲスト集の更新	生活支援の担い手をピックアップ ホームページとの連動	総合事業への展開を視野 情報の見える化
担い手養成のための企画	市民協働プラザとの情報共有 市民活動への参画	情報のプラットフォーム化 ネットワークを広げる

2層コーディネーター バックアップ目標	
犬山北地区	意識が高い住民が多いため、担い手養成を見据えた取り組みを提案。
犬山南地区	協議体メンバーの自主性に合わせ、制度理解のレクチャーを実施する。
城東地区	2SCのフォロー、協議体参加者の養成、協議体が継続できるよう支援する。
羽黒・池野地区	協議体参加者の新陳代謝、成長促しを視野に入れた支援を行う。
楽田地区	メンバーの再編、住民主体の自主化が進められるよう2SCのバックアップを行う。

年間予定

	内 容	備 考
4月	・コーディネーター連絡会（今年度の方針共有） ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、令和5年度版つどいの場マップ、ゲスト集配布	
5月	・関係者向け研修会（講師：さわやか福祉財団：長瀬様） ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集	
6月	・【新規事業】つどいの場（サロン）世話人交流会の企画・準備 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより（夏号）発行	
7月	・【新規事業】サロン世話人交流会開催 ・2層協議体（5圏域） ・民生児童委員研修会にて講話	
8月	・1層研究会、協議体交流会企画・準備 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集	
9月	・コーディネーター連絡会 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集	
10月	・犬山市2層協議体交流会 開催 講師依頼：さわやか福祉財団：長瀬様 ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより（秋号）発行	
11月	・コーディネーター連絡会 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集	
12月	・つどいの場マップ、ゲスト集更新、アップデート開始 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより編集、つどいの場マップ、ゲスト集編集	
1月	・コーディネーター連絡会 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新、コーディネーターだより（冬号）発行、つどいの場マップ、ゲスト集	
2月	・つどいの場マップ、ゲスト集完成→発注 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新	
3月	・コーディネーター連絡会 ・2層協議体（5圏域） ・ホームページ定期更新	

1. 犬山市の要介護認定状況

(1) 人口構成

	人口	「総人口」に占める割合		
	犬山市 (人)	犬山市 (%)	愛知県 (%)	全国 (%)
総人口	72,733			
■65歳以上人口	21,286	29.3	25.2	28.6
■75歳以上人口	12,060	16.6	13.6	15.4
■85歳以上人口	3,395	4.7	4.1	5.2

※高齢化率

資料：「介護認定適正化事業 令和5年度業務分析データ」（厚生労働省）
集計対象期間：令和4年度10月1日～令和5年3月31日

(2) 認定率（第1号被保険者）

	認定者数	認定率 「65歳以上人口」に占める割合			
		犬山市 (人)	犬山市 (%)	愛知県 (%)	全国 (%)
65歳以上人口	21,286	-	-	-	
■認定者	3,300	15.5	17.3	19.0	
■軽度認定者 (要支援1・2、要介護1)	1,937	9.1	8.8	9.3	
■中重度認定者 (要介護2～5)	1,363	6.4	8.6	9.6	
要 介 護 度 区 分 別	要支援1	714	3.4	2.5	2.7
	要支援2	576	2.7	3.0	2.6
	要介護1	647	3.0	3.2	4.0
	要介護2	400	1.9	2.9	3.2
	要介護3	397	1.9	2.3	2.5
	要介護4	374	1.8	2.1	2.4
	要介護5	192	0.9	1.3	1.6

資料：「介護認定適正化事業 令和5年度業務分析データ」（厚生労働省）
集計対象期間：令和4年度10月1日～令和5年3月31日

2. 犬山市の集いの場（サロン）の状況

高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）による集いの場の支援

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
把握している集いの場(サロン) (か所)	118	119	121
活動支援延べ回数 (回)	1,848	1,761	1,800

※令和5年度は見込含む

令和5年度第1回犬山市高齢者地域ケア・生活支援推進協議会

犬山市生活支援体制整備事業の進捗

犬山市第1層生活支援コーディネーター 河村 政徳

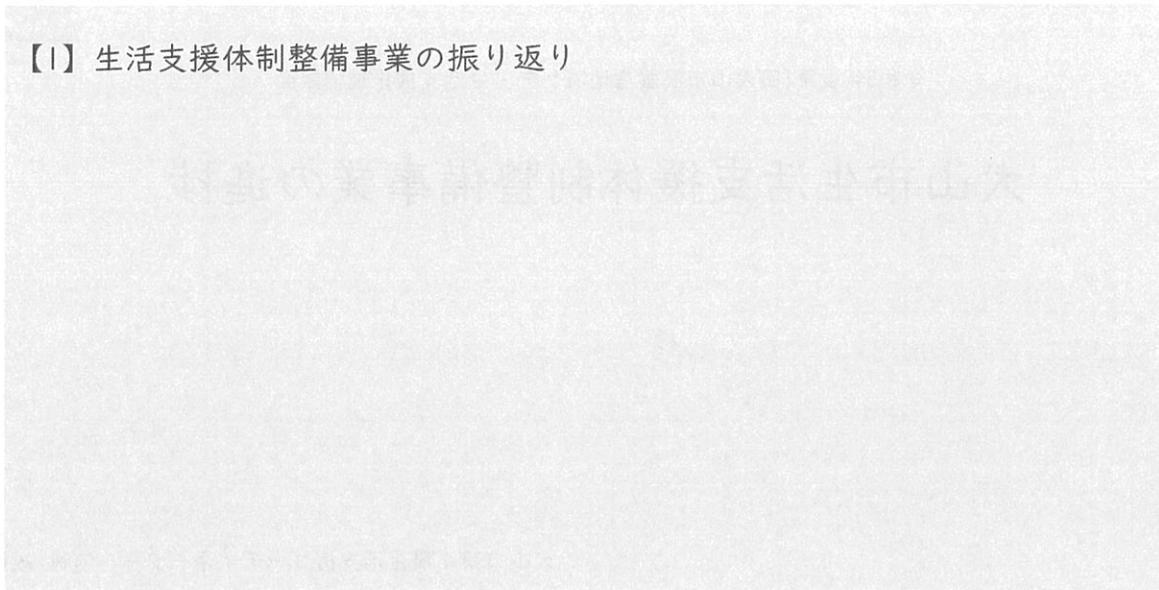
【1】生活支援体制整備事業の振り返り

【2】生活支援体制整備事業の進捗

各地区の2層協議体について
生活支援支援コーディネーターについて

【3】今後の方向性

【1】生活支援体制整備事業の振り返り



さわやか福祉財団の協力により
市民対象に3回の勉強会を実施

平成29年度
2層協議体立ち上げ



各地区の協議体毎月開催

コロナ禍でもできること



地域情報の集約、活動の創出

各地区の協議体継続



犬山市の2層協議体

- ・毎月開催
- ・メンバーの入れ替わり
- ・活動範囲、つながりの広がり

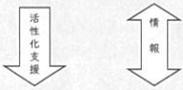


1層協議体

犬山市全域



市全体を俯瞰的に捉え、広域の担い手確保（市民団体、企業など）、政策反映、関係諸団体との連携



2層協議体

犬山北

犬山南

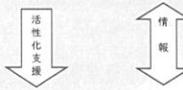
城東

羽黒・池野

栗田



多様な参加者による地域情報の共有、情報の教え合い → 地域課題、困りごとの発見、解決のためのアイデア出し



3層（担い手）

町内会、自治会、コミュニティ、学校、一般企業、NPO、市民団体、サークル、グループなど



ささえ合い活動（見守り、買い物、移動、ごみ出しなど）、居場所づくり（サロンなど）、その他 生活支援の担い手

【2】生活支援体制整備事業の進捗

各地区の2層協議体について

2層協議体の構成

●構成人数

犬山北地区協議体	8～10人
犬山南地区協議体	11～13人
城東地区協議体	5～7人
羽黒・池野地区協議体	12～14人
楽田地区協議体	5～7人

●メンバー内訳

民生児童委員（現役・OB）、コミュニティ関係者（自治会）、老人クラブ、婦人会、サロン世話人、児童関係者、市民活動団体、一般企業、商業者、介護保険事業者、市議会議員、主夫・主婦、地域包括支援センター、社会福祉協議会、行政関係者等

● 初期メンバー在籍率 17～73% (5圏域平均 45.2%)

- ・初期メンバーの在籍率が高いほど、制度理解が深化。メンバー間での軌道修正ができ、行政依存や行政批判的な意見が出にくい傾向。



令和5年10月現在

犬山北地区協議体	58%
犬山南地区協議体	45%
城東地区協議体	33%
羽黒・池野地区協議体	73%
楽田地区協議体	17%

犬山北地区協議体



ヨシゾヤ犬山店会議室



- ・生活支援コーディネーター担当者の変更、参加メンバーの変更等があり停滞気味
制度理解からの再構築が必要

- ・城下町、東部、西部地区の地域性の違いが顕著



地域のお寺で協議体開催

犬山南地区協議体



橋爪中公民館

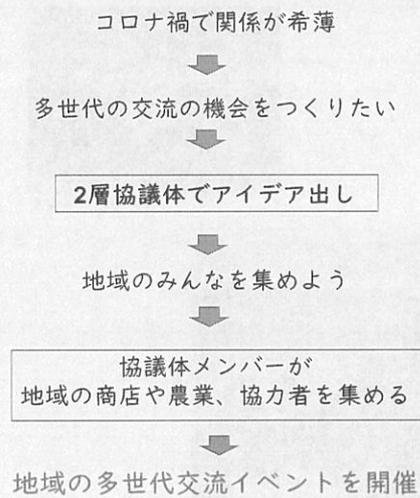


- ・協議体メンバーの制度理解が深く
地域の情報、メンバーの活動分野毎の情報が集約
- ・地域課題解決に向けたアイデアが満載
- ・犬山南地区協議体から生まれた活動が複数



最近では市役所前花壇の話題

令和5年2月13日



城東地区協議体



宗栄寺



- ・新規参加メンバーが複数
制度理解をしながらのリスタート
- ・地域課題解決に向けた意欲が高い
- ・市内の先行事例を視察



西栗田団ささえ愛の会 視察

羽黒・池野地区協議体



東ふれあいセンター



- ・協議体メンバーの制度理解が深く
地域の情報、メンバーの活動分野毎の情報が集約
- ・メンバー間、相互の連携が活発
- ・羽黒・池野地区協議体から生まれた活動が複数



空き家の活用方法の相談



2層協議体でアイデア出し



過疎のため地域が希薄



協議体メンバーが高齢者サロン立ち上げ支援



過疎の集落に子育て世代が越してきた



子育てママを交えた 空き家サロンがオープン



富士わっはっはサロン



尾張富士グリーンハイツ



ふれあいサロン



三世代ヨガサロン

楽田地区協議体



楽田老人福祉センター



- ・住民主体による活動が加速度的に進行
- ・協議体メンバーで
名古屋経済大学の地域連携センターに訪問



地域活動が先進的&加速度的



横町 いちご会サロン
名経学生さんとコラボ



楽田地区 買い物支援



つつじヶ丘団地
名経学生さんとコラボ



新規サロン開始



【2】生活支援体制整備事業の進捗

生活支援コーディネーターについて

情報の見える化・見える化

更新頻度週3~4回！



QRコードから
ご覧いただけます

犬山市生活支援体制整備事業

犬山市生活支援体制整備事業

みるくる犬山

トップ 事業案内 犬山の文化 暮らし 犬山商 就業 福祉・子育て 教育 デジタル リンク

みるくる犬山

お知らせ・トピックス

- ※2025年3月31日 犬山北地区の活動報告を更新しました。
- ※2025年3月29日 犬山市全様の活動報告を更新しました。
- ※2025年3月28日 掛橋・池野地区の活動報告を更新しました。
- ※2025年3月27日 稲葉地区の活動報告を更新しました。
- ※2025年3月26日 犬山北地区の活動報告を更新しました。
- 栗田地区の活動報告を更新しました。

最近の生活支援コーディネーターの活動報告

犬山市全域				犬山北地区			
福祉課 (1)	ついでに課 (2)	生活支援課 (3)	その他 (4)	福祉課 (1)	ついでに課 (2)	生活支援課 (3)	その他 (4)
	※2025年3月29日(月) 犬山まつり145周年の開催人さな交流会 犬山まつり145周年記念イベント交流会を開催しています。コロナ禍ひと際、盛りだくさんで交流が深まっています。				※2025年3月31日(水) 稲葉地区の活動報告を更新しました。お盆期間が近づき、お盆行事の準備を進めています。お盆期間中は、お盆行事の準備を進めています。		



ホームページの情報を集約し
生活支援コーディネーターだよりとして発行

サロン世話人さん 交流会

令和5年7月14日



- ・市内のサロン活動、老人クラブなどの世話人さん約60名に集まっていただき交流会を開催
- ・事前アンケートの集計結果報告
- ・ゲスト集を配布

ゲスト集 発行



【掲載要件】

- ・個人、グループ、企業を問わず
- ・市内全域にお越し頂けること
- ・具体的な謝礼等が不要なこと

2層協議体メンバー同士の交流マッチング



羽黒・池野地区協議体
& 犬山南地区協議体



犬山南地区協議体 & 楽田地区協議体



犬山北協議体 & 犬山南協議体



愛知県内 他市町村の関係者 視察受け入れ
体制整備事業関係者との情報交換

阿久比町、みよし市など

1層協議体 研究会 令和5年9月8日

- 構成メンバー
 - ・ 2層協議体 住民代表1名
 - ・ 2SC
 - ・ 行政担当者
 - ・ ISC

- 話題の内容
 - ・ 2層協議体交流会の企画
 - ・ 市全体に働きかけるアイデア
 - ・ 体制整備事業を進めるためにアイデア 等



2層協議体 交流会 令和5年10月21日



全体会にて各2層協議体の活動発表

愛知県内 他市町村の関係者 視察受け入れ 岩倉市



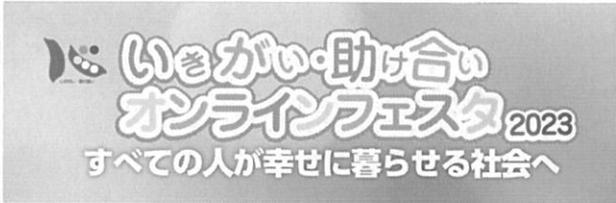
グループに分かれて交流会

制度理解の深化、軌道修正

体制整備に取り組む仲間の確認

さわやか福祉財団
いきがい・助け合いオンラインフェスタ 登壇

令和5年10月2日～16日



さわやか福祉財団では、2023年10月2日～10月16日に「いきがい・助け合いオンラインフェスタ2023」を開催いたしました。
「いきがい・助け合いオンラインフェスタ2023」は、2019年から3回にわたって開催した「いきがい・助け合いセミナー」でまとめた趣意を踏まえて「すべての人が幸せに暮らせる社会へ」をテーマに、全国オンライン配信形式にて開催いたしました。
期間中多くにご参加いただきました。厚く御礼申し上げます。
このページでは、オープニングフォーラム及びクロージングフォーラムの動画をはじめ「いきがい・助け合いオンラインフェスタ2023」の概要を掲載しています。
皆さまのご活動の参考としていただけましたら大変幸いです。



【3】 今後の方向性

生活支援体制整備事業の維持、継続のために

- ・ 協議体の維持継続 → メンバーの意欲維持、事業周知
- ・ コーディネーターのバックアップ → 制度理解、方向性の共有
- ・ 住民活動の支援 → 見える化見せる化、立ち上げ支援、助成金等資金の課題
- ・ サロン世話人支援&評価 → 世話人さんの交流、活動・参加者の評価
- ・ 次世代の担い手育成、親和性のある領域との連携
→ 高齢者の介護予防のみでなく、広い視野での住民主体での地域活動

ありがとうございました。

